

宮の御恩歟歟に深く有恩也（寛政特許）に由ふ故に御

勞は米汽船ローザン號にて米國を
 經て歸國すべしと
 したくをなすに
 熱心にお勤め下さるものだから、そこで
 はご申してお受けいたしたやうなわけで御座
 りました。そこで御座います、上流の
 家庭に這入る

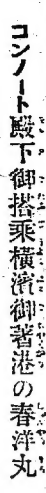
い早春の氣分がよく現はれてゐて、旋の下に開かるゝに至つた所以、
御覧人極めて感じの明るい番、入市櫻はゐると云ふ

天 昨 龍 行 止 同 人 追 々 揮 秋 河 接
 二 三 六 國 十 號

段	均	平	城
四	三	一	家
都	都	都	宿
二	今	二	二
三	三	三	三
三	丁	九	五
圓	三	三	九
一	度	十	七
前	連	廿	日
釜	船	午	至
山	上	到	山
入	陸	來	港
港	客	已	行
二	十七	日	午
等	日	午	午
客	午	午	午

[illegible]

何事書
 廿二日
 廿二日
 廿二日
 廿三日
 廿四日
 城日報編輯局文談係者

[illegible]

那及支那人に對する親愛と努力は支那官民は元より内外人の敬

の當時革命の領袖たる孫逸仙
貴州等より暫制改革に就きて意見
を叩かれたるを以て予は可成り意
に亘りて改革に關する所見を披瀝
したり然るに之れ亦實行に至りて
は從來と同じく選組の外なかりし
が支那政府當局は暫制改革に付き
希望を捨てず昨年六月林公使歸朝
の際も支那政府より暫制に就き
々々種々の傳言ありたるも予は單
に意見を述べ徒らに改革の調査を
爲すのみにて之を實行せざるに於
いては其の勢や全く徒空に屬する
を以て容易に承引せざりしが支用
政府の希望亦切實なるを以て日本
朝野の約束も亦相談の上支那政府
とは何等の約束を結ばず單に自分
一個の都合を以て支那各地を漫遊
し人々皆背する處なるが改革實行に
就いては尋常一蹶の決心とか又は
僥倖とかにては到底實現し又成果
を取むる事困難なり且つ暫制改革
の事は實に國體統一上の根本問題
なるを以て予の意見と共に多くの
研究を考慮するを重むる實行に臨ん
遊覧ならん事を避言したり

● 崇められたる汕頭

安東某所と推せし汕頭最近の町容左の如
● 押しつ押しされつぜ

最近に於て南北並共に活動を開始
し南東の陳炯明は進んで福建支
武平縣を占領し形勢極めて有利
に進捗し來りたるも他方に方

は之等有力なる人々も是非世態
改革を必要とするを以て調査を
めて貰ひ度しとの事に由り一先

四月二十五日北京を發し漢口、上海、濟南、青島等を巡新し五月二十日北京歸來此の觀察旅行中北京及び上の状況に就きては最も詳細なる觀察調査を遂げ日子の過半以上を兩地に於て費したる之れ北軍の政治の中心地として支那郷の有力者達に集まるとのみならず各外國代表者及び政治經濟上有名なる南軍も此處を先達として咄

下

[illegible]

ませて其の上消を苛性加里又は硫酸で乾燥せると黄色い光澤のあ

[illegible]

1

かけると直ぐ口を開くから其の
時毒牙の有毒を極するのである
此蛇の毒を採つて薬に
使ひ藥で附本するが其旨は
蛇の毒を採收して藥劑の原料に
することがある、其の方法は蛇を
止せる此のうへに、蛇其一名「樹皮鼠」
一種「蛇毒」を採集しあつたなる
地方は皆官費として送す、同一地方
に於ける所は、其の割合金銀に
する例なきは此地の人口二萬以上に達し
て、其の間に、此蛇の毒を採集し、
製成し、其の割合金銀に失ふ

特帶銀 四十圓
 等廿圓
 等三十圓
 等十五圓
 等四十圓
 等三十圓
 等十五圓
 活動寫真黃金館

日誌六月十四日より（午後六時開座）
密
京城日報社

京城本町壽館
電話一〇五〇
女流浪花節正橫綱
笑樂家賀藏收

有樂館
 六月二十三日「喜より初日」
 明町三丁目
 浪花館
 落語(小遊)落語物まね(座下)
 落語(手廻)落語(茶)
 落語(山花)落語(笑)
 落語(四楽)落語(水)
 落語(大切落語)落語(唐馬)
 釜山商店案内
 酒精、磁器、燒酎
 人生活の第一は健康である。伊達一太郎の居る所には必ず健康な人々が集まる。その健康を維持し、増進するに必要なのは、適度な運動と、清潔な環境である。本館では、毎朝の運動会と、清潔な環境を提供している。また、本館では、毎朝の運動会と、清潔な環境を提供している。また、本館では、毎朝の運動会と、清潔な環境を提供している。

雜貨店

[illegible]

信用生産額

電話 二六三六
黄金館

●人の氣つかぬ
有望職業

香
り申候

[illegible]

式株藥

アドリ目類は高潔博士発見の
 妙藥アドリナリンを主藥とす。全國藥店にあり

唯
 一
 つ

社會

るか無理に胃液の分泌を
此タラコンは消化の固腸
を養へ消化を十分にして

[illegible]

第二

安^{やす}住^ずか^かり^りと^と泉^{いづみ}
 涼^{すず}しい海^{うみ}邊^べ
 靜^{しず}かな綠^{きよ}蔭^{かげ}
 到^{いた}る處^{ところ}本^{ほん}品^{ひん}の
 需^す要^{よう}季^き節^{せつ}に^に入^い
 代^{だい}表^{ひょう}的^{てき}最^{さい}優^{ゆう}品^{ひん}
 可^こ田^た宮^{みや}區^く北^{きた}阪^{はん}
 房^{ぼう}藥^{りやく}大^{だい}住^ず

の處る到
に屋物荒

建築金物・土工用具一式

登録商標

猪印

及店給
す賞販


二丁目（長橋通角）
診療所
病完

一番
よく効く
目薬は

定拾錢
價貳拾五錢

（入院隨意）
（電話二八三七番）

東町京
泰昌製藥株式



京威水學町衣丁

魚釣具及網鉗賣 吉備商會

島前用カスミ網各種あり御申渡被成候様最速也

電話三二一八番
振替東京四三二八番

池田季雄

イケタ小兒病内科醫院
京城三越藥店前へ入る旭町四丁目 電話 醫院二三三四番
住宅二〇〇〇番

信用生産額共六億一
「代表的の最優品」
安住大藥房
大阪北區宮田町一
大住安藥房

涼しい海邊

安住大藥房

登 嶺 商

猪 印

香線

り申候
需要季節に入
至る處本品の

び及店線の處る到
す賞販に屋物流

建築金物、土工用具一式
 京城本町三丁目
 和洋金物商 佐藤半次郎商店
 電話四三番 電話二〇番
 振替口座京城一五二〇番

塚原卜傳

悟道軒圓玉口演

相撲取り一同も熊吉の言葉聞いては強ひて留めかねますからそれではよい事になり茲で別れる事になり一両は出立をする、熊吉は湯屋の宿に寝りました、さて塚原太一郎は一旦目黒の小松屋作の太へ立戻つて此處をいかに改めて金子を蓄へて通り、それから小石川村の郷士高村小太夫の件を訪ねる郷士とはいひながら堂々たる門構へ召使ひも數多居る、まづ三四十石の武士と同様の生活であります

小石川村に立つて、小「頼む、太郎に尻を洗はせ與へ通す、小「改めて挨拶をして、小「さて叔父上には十五六歳の御お目に懸つた切りて其後は更に目お通りをいたしませぬが御社様におひますか、小「はいそれが向に殘念な事をいしたし、小「お仰しやるのは、小「夫はつい三月ばかり跡に歿しました、小「エッお失なりになつた、小「それは少しも存せぬがシテ御病氣、小「それが病氣なら醫め、小「もいたしますが勢多事で命を落しました、小「若しや人手に罹らねば



○「ドレ」と出て来た用人、川（川）の方で……小（小）捕者は原、原、小太（小太）郎、久晴（久晴）無沙汰いたしました、叔父上ははじめ御一總御機嫌よくお代でござるか、小太郎が参つたさ、お取次下さい、川（川）ハア左様でございますか、少々と奥へ入る、入れたが其折返氣に申つたものさ、いまして驚つて参りましたで大熱に違つて出て来たのは小太夫の妻のおとよ、五十ばかりになる、と小太夫方かと思つたら小太郎様でしな、よくお訪ね下さいました、見違へるやうに立派にお成んなすつたから一寸では判りませんよ、サアお上んなさい、小（小）叔母様でございまして其後は存じながら御無音に打過ぎまして何とも申渡さく……と「まあ種々お話がありまがございませぬ定まる因果でございすが、困るのは其處つた一匹

の雌狐が夫を殺された恨みに祟りをいたしまして、其れから間もなく一人の娘が其祟りのために癪病に陥りまして、手のつけやうもなげない始末……小それは怪しからぬか如何に祟りをすればとて一人女ら姉御まで悩まされるとは奇極至極、さう申せば天狗のやうでござるが膽氣が參つた以上御心配に成りはれぬやうな表振なり、召使ひは是れが乗移つてくるで人間とは違ふ勢あつても頼みにならず困つて居りましたが小太郎様がお下すたのは天の助け……と私事は角へ國表の驛動から其方のお方知られ譯ではございませせんしが御存じの通り夫小太夫が、方の父上土佐守權に佐竹の家を身するやう御意見したのが原因陳述になり打過ぎましたと思えながらの無沙汰、しかし能く御事で「イヤ今となつては叔父太夫殿の御先見鏡の如き父兄の期拙者の苦心、コレも佐竹眞正ため……」其れは兎に解おきよ殿拙者誓つてお助け申す。

三十一

六月二十日九星
舊五月十二日戊戌
本命二黑坤定佛滅

▲二里 親父の雇へり事日暮見合方
▲三里 親父の雇へり事日暮見合方
▲四里 親父の雇へり事日暮見合方
▲五里 親父の雇へり事日暮見合方
▲六里 親父の雇へり事日暮見合方
▲七里 親父の雇へり事日暮見合方
▲八里 親父の雇へり事日暮見合方
▲九里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十一里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十二里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十三里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十四里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十五里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十六里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十七里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十八里 親父の雇へり事日暮見合方
▲十九里 親父の雇へり事日暮見合方
▲二十里 親父の雇へり事日暮見合方

最上清酢

● 日本一

印ンカルマ

上 龍 醬
油
日本醬油株式會社
京城出張所
電話二五番

さきず

永年せきすい病芋足引腰足不
腰骨痛みしびれ等効顯著春
ばれ眞藥あり困難病者葉書中込
びれ無料詳報す
播州明石郡林村 木本本家

分週一先
 ばる
 滋強丸
 種
 此丸は、
 滋強丸の
 種

其他腦や神経の病に對し、絕對的
 的効に目的を達せしめ、實験的
 的効にキテ、本無代價の贈送
 券を施す。イイカハ、願ひ
 先着先施す。

石粉
 洗粉
 正塩
 目下
 傷

東亞
 藥房
 東京
 亞細
 亞細
 亞細

李王 龍御用
 乾牛乳
 ニッソ

寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛版
最も熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と可成懇切な旨とし、御高需に可應候
眞寫
京城日報社 寫眞製版部

今東京で大評判の元

素液色黒き顔赤き顔日やケおしろいやケ

色白なる分

美人笑男子となる全国の薬店
 小堀 二十銭
 徳川 四十銭
 釜山 〇
 江陵 〇
 濟州 〇

凡六月十九日 釜山發
浦頂線 釜山發長生浦力魚津九
凡襄陽丸 每日釜山浦港
凡行 釜山發 釜山發長生浦力魚津九

涼風

夏は なつ

金鷄香水

の天下 てんか なり

<p>大坂船場等ノ爲メ最寄日時出帆スル船荷 之類ニ付船名ハ本水及ハ各港支店ハ船荷 店取店店ニシテ水手及ハ被成店ハ被成</p>		<p>○敦賀行 清津發城津 元山發 六月廿九日 元山發</p>		<p>○蒲安行 大坂船場 釜田元山清津 六月廿五日 元山發</p>		<p>○雄基行 龍門釜田釜田釜田釜田釜田 六月廿四日 釜田發</p>		<p>○雄基丸 六月廿四日 釜田發 六月廿九日 釜田發</p>		<p>○元山雄基丸 六月廿一日 元山發 六月廿三日 元山發</p>		<p>○關門行 大坂船場 釜田釜田釜田釜田 六月廿五日 釜田發</p>		<p>○京畿丸 六月廿五日 釜田發 六月廿六日 釜田發</p>		<p>○金剛山遊覽便 釜田釜田釜田釜田 六月廿九日 釜田發</p>		<p>○釜田丸 六月廿九日 釜田發</p>	
--	--	-------------------------------------	--	---------------------------------------	--	--	--	-------------------------------------	--	---------------------------------------	--	---	--	-------------------------------------	--	---------------------------------------	--	-----------------------	--

Overland

TRADE MARK REG.

圓百貳千參格價

也型〇九れ是

萬十五數とるき用使の車動自ドンラアグーオ

也臺一の中其れ是

ンリプスアグレチンカ部後れ是 しよ地心乗 大力速 美觀外
 いりなばれざら上飛もきとる走を路道るな悪粗り由に造構のゲ
 りなばれな易平走駛り依にヤイタるな大
 あ掛仕氣電りよ舵 りあ地餘すば伸を足 に共客乗に共手轉運
 得し轉運も子女 り

易容縦操もか而てしく強力動 く良地心乗もか而てしに快輕
 也き向用實程るさせ損破尙てし用使に暴亂
 車動自此はるな廉低格價てし而しな途費に外てし備完品屬附
 也以所るす飛雄に界世が

スリモーチエーゼ
 地番九拾捌貞府城京

社會ドンラアグーオ スリウ
 市ドレト州オイハオ國米

[illegible]

が、**病氣**の

と散倒いま
するほどの事はないから、平穩

然う、そんな事位なら、まゐ

なもんですが……。と云ひさ
て、久子は一頓座敷の隅を

「俊や、妾から一寸禮さんに相

100



1

[illegible]

やうがなくなつた
うに、
で、
妾御遠慮を申上げま

つて了つたのと、老母は、壁

が何も意地からに、責め付け

入つて來日で三日も、宅へ歸つて來な

座2いましたか
はい、實ちのお前はなしを愛いた

上をこるやうなやうな切ない辛い思ひを忍

ら、その儘に
どの鼓動が波打つやうに噪い

米

治用冰

八
五

仁川助米

公先限二十三圓五錢四錢三錢二